

令和7年度 教育行政の点検評価
(令和6年度事業実績)



ふるさと体験学習（平生中学校）

令和7年11月
平生町教育委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

主な取組の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

【施策】

知・徳・体の調和のとれた子どもの生きる力の育成・・・・・・・・7

子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり・・・・・・・・9

人権教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

地域で支える子育て環境づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・11

生涯学習と文化活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興・・・・・・・・・・・・13

読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実・・・・・・・・15

【はじめに】

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たして行くという趣旨に則り行うものです。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の期間及び対象

点検・評価は、令和6年4月から令和7年3月の間で、「第五次平生町総合計画」「平生町教育振興基本計画」に基づき実施された事業で構成される施策を対象としています。

3 点検・評価の方法

教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

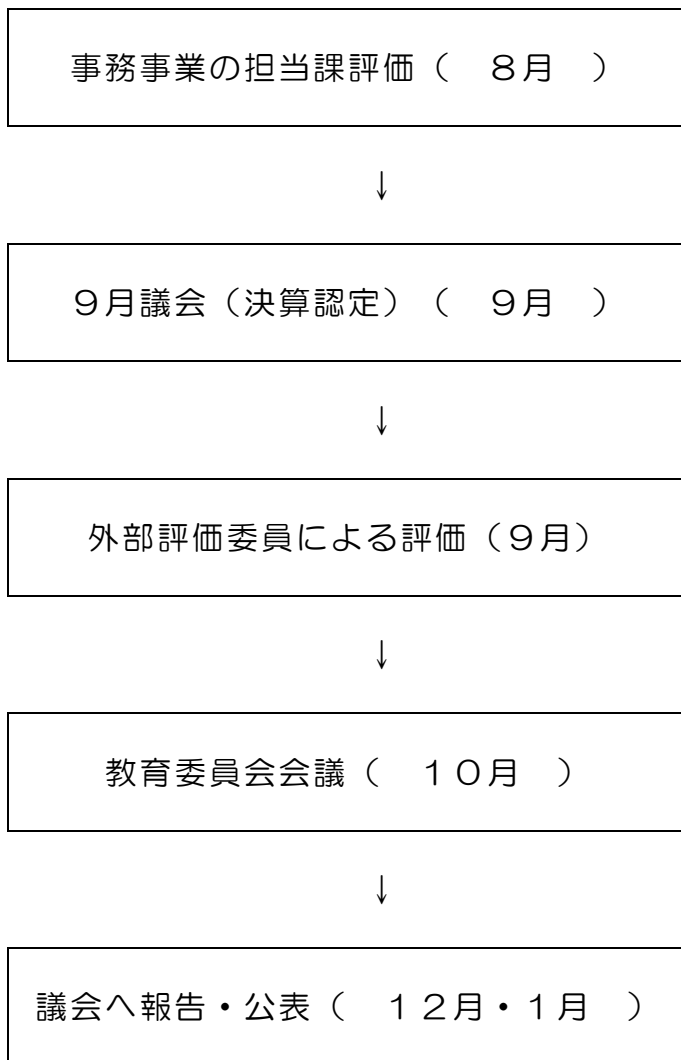
法第26条第2項の規定による教育に関し、学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

平生町教育行政評価委員会委員

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
委員長	中 田 政 明	学識経験者
委 員	福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長
委 員	森 繁 民 治	学識経験者

4 実施フロー



主な取組の成果

学びの連続性を重視した未来を担う人材の育成

幼児教育から中学校までの各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進し、自己の進路選択に主体的に取り組む態度と能力の育成に努めた。

また、学校と家庭、地域、産業界等との連携を強化し、体験活動をはじめとする教育活動の一層の充実を図るとともに、地域産業への理解を深め、ふるさと平生に貢献する人材の育成に取り組んだ。

学力向上の推進

(主体的・対話的で深い学びの実現)

(個に徹した教育をめざす取組の充実)

子どもたちが主体的に学ぶアウトプット中心の授業をめざす「平生町授業スタンダード」の実践とともに、外国語及び算数・数学の学習者用デジタル教科書の導入によるICTを効果的に活用した分かる授業の創造(授業革新)に努めた。

一人一台端末を活用した教育用アプリ等を引き続き導入し、個々の進度にあわせ、主体的に学ぶ態度の育成に努めた。

グローバルに活躍する力の育成

中学校におけるオンライン英会話の取組みや学び支援事業(実用英語技能検定受検料の助成)を継続実施し、外国語教育の充実を図った。

平生小学校を会場に、町内の小学4年生から中学3年生までの児童生徒を対象とした県主催の「夏休み Scratch※ワークショップ」に協賛し、デジタル人材の育成を図った。

※ブロックを積み上げるイメージで簡単にプログラミングができるオンラインツール

生徒指導上の諸課題への取組みの充実

スクールソーシャルワーカー(学校における福祉等の専門家)を中核に据えた生徒指導、教育相談体制を整え、関係機関と連携し、「チーム学校」として、子どもや家庭への支援を実施した。

国の事業を活用し、一人一台端末を活用した心の健康観察アプリを導入し、児童生徒の心身の状態の変化を把握することで、メンタルヘルス不調の兆候や児

児童生徒が発する SOS の早期発見、早期支援につなげた。

個のニーズに応じた教育の推進

補助教員や学校支援員の配置により、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図った。

学校における働き方改革の推進

第3期山口県学校における働き方改革加速化プランの策定に伴い「平生町立学校における働き方改革の推進について」（改革取組方針）を改定し、各小中学校の「働き方改革チェックシート」の実践・見直し、取組状況の公表を通して働き方改革を進めた。

会議資料等の印刷業務や教材教具の準備・片付けなど、教員の事務的業務を補助する教員業務支援員を各小中学校に配置し、教員の業務負担の軽減を図ることで、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、学校教育活動の充実を図った。

中学校においては、引き続き、部活動指導員を（14人）配置することにより、生徒にとっては専門的な指導による技術向上を、教員にとっては経験のない競技の指導による心理的負担の軽減と業務改善を図った。

「平生町立学校の将来の在り方」の検討

令和6年4月に、「平生町立学校の将来の在り方検討委員会」を設置し、急激な少子化と学校施設の老朽化が進行する中での町立学校の将来の在り方の方向性について、検討委員会に諮問を行い、5回の審議と4回の地域説明会を経て、令和7年2月に検討委員会から最終答申を受けた。

本答申を受け、次代を担う子どもたちにとってよりよい教育環境の構築と質の高い学校教育を実現するため、町立学校における将来を見据えた学校規模の適正化や学校配置の在り方、少子化に対応した魅力ある学校づくりなど、持続的で魅力ある教育の姿と施設等の在り方に関して、教育委員会として「平生町立学校の将来の在り方に係る基本構想」を令和7年3月に策定した。

今後7年後を目安として、佐賀小学校と平生小学校、平生中学校を1箇所に集約する「施設一体型小中一貫教育」の学校を新たに設置する方向で検討を進めていく。

人権教育の推進

一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会づくりを推進するため、平生町人権学習講座を3日間開催し、国や県の人権関係施策の説明や、様々な人権課題の講演会を実施することで、地域住民の人権意識の高揚を図った。

広報ひらおにおいて、人権コラム「つながり めくもり」を隔月掲載し、啓発を行った。

地域で支える子育て環境づくりの推進

地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、幼稚園を含む学校と地域の連携・協働がスムーズになり、地域住民による学校支援ボランティア活動が幅広く行われた。

学校と家庭をつなぐ役割を担う「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援は、学校だけでなく、SSWやゆうなんこども家庭支援センターとも密に連携し、支援を必要とする児童生徒や保護者に対して、よりきめ細やかな支援体制が整った。

地域で子どもを育てるまちづくりの推進を目指し、青少年育成町民会議等との連携により、子どもたちが地域住民と交流できる行事や、登下校時の見守り活動・あいさつ運動に取り組んだ。

また、中学生・高校生が地域活動の運営サポートとして参加・貢献できる「中高生ボランティア活動」は4年目となり、多くの中学生・高校生が地域の諸行事に参加することで、地域の活性化につながるとともに、自身の自己肯定感や自己有用感の高揚にもつながっている。また、令和6年度は、中高生主体のボランティアに力を入れ、行事の中で中高生がバザーの企画・運営をするなど、「参加するボランティア」から「考えるボランティア」に活動の場を広げ、地域の方と一緒に行事を盛りあげた。

生涯学習と文化活動の推進

生涯学習の推進については、町民憲章の具現化・花いっぱい運動・町職員が講師となるまちづくり出前講座等を実施し、町民への学習機会の提供・啓発を行った。

生涯学習活動の拠点となる地域交流センターを所管する地域振興課と連携し、地域交流センター主催講座等、活動支援を行った。

芸術文化活動においては、町の芸術文化活動の推進を担う、町文化協会・町音楽協会の活動を事務局として支援した。特に音楽協会では、コロナの影響で令和

2年度以降の実施が見送られていた音楽鑑賞会を5年ぶりに開催し、町内児童・生徒や町民に、生の演奏を鑑賞する機会を提供することができた。

生涯学習活動の成果を披露する秋の文化行事は、令和5年度に立ち上げた実行委員会形式を継続し、関係団体で情報共有を図りながら運営を進めた。また、町内小中学校が教育カリキュラムの位置づけで、音楽発表や作品展示等、地域行事に積極的に参加する形をとり、地域へ学習成果を発表することができた。

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興

生涯スポーツの推進については、ウォーキング大会、ファミリースポーツ・レクリエーション大会、駅伝競走大会を実施した。また、我がまちスポーツに位置づけている「サッカー」による地域の活性化を図るため、実行委員会の主催する「サッカー教室」に対し助成を行った。

令和7年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域部活動検討委員会及び検討委員会の部会（運営団体設立準備部会）を開催し、協議を進めた。また、中学校PTA総会、町PTA連絡協議会総会および研修会にて説明を行った。

読書活動の推進

「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書活動を推進するため、引き続きブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館、学校等への児童書の配達等を実施した。

地域に親しまれる図書館を目指して第7回「ひらお図書館まつり」を開催した。

社会教育施設や文化財を活用した社会教育の充実

開館20年を経過した阿多田交流館において、館内すべてのエアコン取替、照明のLED化を実施し、施設の適正管理に努めた。

また、体育館及び武道館の廊下、事務所並びに音楽道場の照明をLED化し、利用環境の整備に努めた。

文化財関係では、地域に伝わる文化財の保存・伝承に対する補助金交付要綱を策定し、地元文化財や郷土芸能の保存・伝承活動に自主的に取り組む団体等へ補助金を交付した。

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6 年度)

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課
施策	02-09	知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成	総合評価	C

1 目指す姿

高い志と広い視野を持って、可能性に挑戦する子どもが育成されるまちを目指す。
一人ひとりの願いや思いを志に高め、確かな学力を基盤とした広い視野を持って、希望を持ちつつ、未知なるものへ進んで挑戦する態度や困難を乗り越える態度、新しいものを取り入れようとする態度を身に付けた子どもを育てる。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、小学校は、国語が全国平均並み、算数は県平均をやや上回った。中学校は、国語が全国平均並み、数学は県平均をやや下回った。 ・自己肯定感に関する調査では、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした児童・生徒の割合が高まった。 ・体力向上については、小学生中学生ともに前年度比で合計点が低い傾向がみられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言語化し、根拠をもって伝えたり書いたりするアウトプット力を向上していく必要がある。 ・教員組織として若手教員が多いことから、授業力や生徒指導対応、保護者対応の力を高めることが課題である。 ・体力向上については、小学生の段階から家庭や地域とも連携しながら運動に慣れ親しむ習慣づくりをしていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	全国学力・学習状況調査の平均正答率	%	目標	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	-
			実績	小6 国:全国平均をやや上回る 算:県平均を上回る 中3 国:全国平均並み 数学:県平均並み	小6 国、算ともに全国平均を下回る。 小6 理科全国平均をやや上回る。 中3 国:全国平均並み 中3 数学・理科全国平均を下回る。	小6 国・算全国平均並み 中3 数・英全国平均並み 中3 国 全国平均をやや上回る	小6 国:全国並算:県平均をやや上回る 中3 国:全国並数:県平均をやや下回る		

自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	%	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	※ (ノ) : 前年度実績との比較	-
		実績	小6 60.2% (ノ) 中3 82.9% (ノ)	小6 73.6% (ノ) 中3 62.0% (ノ)	小6 64.5% (ノ) 中3 66.1% (ノ)	小6 68.4% (ノ) 中3 78.1% (ノ)			
全国体力・運動能力等調査における体力合計点	点	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	※ (ノ) : 前年度実績との比較	-
		実績	小5男 : 51.1 点 (ノ) 小5女 : 54.6 点 (ノ) 中2男 : 44.3 点 (ノ) 中2女 : 49.6 点 (ノ)	小5男 : 48.6 点 (ノ) 小5女 : 54.1 点 (ノ) 中2男 : 45.4 点 (ノ) 中2女 : 51.4 点 (ノ)	小5男 : 55.3 点 (ノ) 小5女 : 58.7 点 (ノ) 中2男 : 40.4 点 (ノ) 中2女 : 48.0 点 (ノ)	小5男 : 51.1 点 (ノ) 小5女 : 53.7 点 (ノ) 中2男 : 39.7 点 (ノ) 中2女 : 43.3 点 (ノ)			

4 施策の方向性

- ・アウトプット力の向上を進める。
- ・教員の授業力、生徒指導対応、保護者対応の力を高める。
- ・家庭や地域とも連携しながら運動に慣れ親しむ習慣づくりを進める。

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	オンライン英会話	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	学び支援事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	体力向上プログラム	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持

外部評価	C
------	----------

評価委員意見	
--------	--

・学力向上に向けては、中位から下位層の子どものやる気を引き出し、すべての子どもが「わかる」「できる」を実感できる授業の工夫など、子どもを丁寧に見取り、わからない子を置き去りにしない工夫が重要。

・成功体験を積みませ、黙っている子を主体的な参加や発言へ促す授業づくりが鍵。

・単元を「進めること」よりも、子どもをよく見て向き合いながら授業を進めることが成果につながる。

・生活・学習習慣の変化に対応し、幼保・小・中の連続性を重視して早期から習慣定着としつけの基盤づくりを進めてほしい。

・若手教員を含む教師は、教職への誇りと使命感を持ち、ただ授業をこなすのではなく意識高く改善に取り組んでほしい。

・施策は即効性ではなく中長期で捉える必要がある。常に課題を見極めて打ち手を継続するとともに、「何を実施したか」と「どう評価したか」を明確化しないと学びが循環せず、組織も状況も変わらないと考える。

・現状を正面から受け止め、現時点での具体的な取り組みの有無とその成果評価を明確にし、結果を次につなげる姿勢が重要。

・管理職任せにせず、組織横断で具体的な取り組みを積み上げていくことが重要。

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6 年度)

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課
施策	02-10	子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり	総合評価	B

1 目指す姿

ICTを生かした一人ひとりの個別最適化された学びや創造性を育む学びを実現するとともに、誰もが相互に支え合い、子どもたちが多様なあり方を相互に認め合える共生社会の形成に向けられたインクルーシブ教育システムの構築を目指す。また、常に子どもたちの前でエネルギーにいられる教師であるために、教員の働き方改革を進め、新しい学習指導要領に示す「質の高い授業の提供」に結びつける。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ICT支援員による教職員へICT活用のサポートを実施 教員業務支援員を各校に配置し、教員が本来担うべき業務に専念できるよう支援を実施
課題	<ul style="list-style-type: none"> 将来のICT支援員の担い手となる人材確保について難航が想定される。 教員の時間外業務時間は経過としては減少傾向にあるが、確実な目標値クリアに至っていない。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合	%	目標	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	-
			実績	小：91.4 中：86.8	小：100.0 中：99.0	小：100.0 中：92.6	小：100.0 中：71.6		
	教員1人あたり1カ月時間外業務時間	時間	目標	小：41.6 中：69.3	小：39.0 中：65.5	小：36.3 中：61.6	小：33.7 中：57.8	小：31.0 中：53.9	-
			実績	小：41.4 中：69.3	小：40.8 中：59.8	小：38.3 中：65.2	小：37.0 中：56.7		

4 施策の方向性

教員の働き方改革に不可欠である外部人材の更なる活用を行う。

5 関係主要事業

戦略	事業名		分析・検証結果		今後の方向性
	ICT支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	教員業務支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	A	事業拡大・費用拡大
	部活動指導員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B
------	---

評価委員意見	
--------	--

・ ICT支援員の配置など支援体制を比較的厚く整え、良好に推進されているが、さらなる成果が見える段階には至っていない。支援にとどまらず「何をどうするか」を明確に示す強い指導を求める。

・ 授業での実践的なICT活用を進めるには、各教科ごとに実践研修を実施し、授業に入り込む伴走型支援が有効と考える。

・ 学校全体で教員の働き方改革が求められている一方で、現場では改革が進んでいないのではないかと。

・ 教員の働き方は、単なる業務削減や業務支援員の方に丸投げではなく、連携しながら共に進める姿勢が必要と思われる。学校管理職（校長・教頭）が状況を把握し、必要に応じて指導する体制が必要。

・ 部活動は平生町の独自方針を自信を持って徹底し、関係者全員に周知・実践していくべき。

・ 部活動は文化部・運動部を問わず、地域や外部の専門性を積極的に取り入れる連携体制を整え、教員負担の軽減と生徒の主体性向上の両立を図ってほしい。

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-11	人権教育の推進		
				B

1 目指す姿

「山口県人権推進指針」および「山口県人権教育推進資料」を活用する取組みにより、住民一人ひとりの人権が尊重された誰もが笑顔で住むことができる心豊かなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・平生町人権教育推進協議会において、学校・家庭・地域社会における、さまざまな人権教育について協議を行い、取組みを進めている。 ・地域における学習機会の充実を図ることを目的に開催する人権学習講座には、町内学校教職員の参加も多い。 ・町広報紙「広報ひらお」で、人権コラム『つながりぬくもり』により、啓発に努めている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平生町人権学習講座は毎年受講される人も多いが、小中学校保護者世代や、町内企業の従業員に周知をする等、引き続き、幅広い世代により多く受講してもらえるような取組みが必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
人権学習講座参加者数 (3日間の合計)	人	目標	125	140	150	160	170	95.6%
		実績	125	130	142	153		
「広報ひらお」への「人権コラム『つながりぬくもり』」の掲載回数	回	目標	6	6	6	6	6	100.0%
		実績	6	6	6	6		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	人権学習講座については、より多くの町内事業所の方・小中学校保護者世代に参加していただけるよう周知を強化する。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
平生町人権学習講座	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習講座について、3日間連続開催がいいのだろうか。 ・同じ人ばかり受講している。参加者を増やす取組みとして自治会長への呼びかけをしてみてもどうだろうか。 ・幅広い分野を提供しており内容は良い。 ・人権コラムについて、児童・生徒の作文を掲載してみてもどうだろうか。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課		
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	A
施策	02-12	地域で支える子育て環境づくりの推進			

1 目指す姿

学校・家庭・地域が連携した家庭教育、子育てサポートを充実させ、地域で子育てを支えるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協育ネット運営委員会を中心に、生徒も加わって熟議を行い、15歳・18歳の平生っ子の目指す姿を話し合い、スローガンが決定した。 ・地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、地域と学校の連携がスムーズになり、特色ある地域協育ネット事業が幅広く展開されている。 ・家庭教育支援チームによるきめ細かな支援が展開されている。 ・青少年育成町民会議や町子ども会等の社会教育団体との連携により、さまざまな体験機会を提供できている。 ・地域協育ネットの事業の中に立ち上げた「中高生ボランティア活動」では、町内及び近隣市町の中高生が、積極的に地域の行事にボランティアとして参加している。令和6年度は、中高生主体で企画・運営ボランティアにも力を入れ、地域の方と一緒に行事を盛りあげている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続していくにあたり、現時点では活動が維持できているものについても、新たな人材確保等、長期的視野で体制を整える必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	学校支援ボランティアなどにより学校を訪れる地域の方の人数	人	目標	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700	107.1%
			実績	6,301	6,665	6,817	7,066		
	地域協育ネットコーディネーター養成講座修了者数	人	目標	6	7	7	8	8	162.5%
			実績	6	7	8	13		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	地域コーディネーターが中心となり、地域への学校行事の発信と参画を促し、地域のボランティアに加え、児童・生徒の保護者世代にも声かけをする。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名		分析・検証結果		今後の方向性
	地域協育ネット	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用縮小

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生ボランティア活動は、「参加する」から「考える」に変わっている。 ・地域交流センターの催しについては、地域差があるように感じる。 ・地域の積極的な活動は誇れる。大人の都合で企画しないこと。子どもたちは、大切にされることも大事だが、たくましさを身につけることも大事。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-13	生涯学習と文化活動の推進		
				A

1 目指す姿

情報化社会に対応できるようなオンラインを通じた学習など、住民の誰もが、生涯を通して健康で生きがいのある人生を送ることができる生涯学習社会の実現に向けて、生涯にわたって学べる環境や体制を整え、「生涯学習のまちづくり」を進める。また、芸術文化活動による潤いに満ちた心豊かな生活の実現を目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の一環として取り組む「花いっぱい運動」は、町内小学生も学校の教育カリキュラムで、参加団体とともに苗移植を体験する等、取組みを理解しながら学習をすることができている。 ・芸術文化活動については、関係団体による連携のもと、5年ぶりに町音楽鑑賞会を開催し、町民へ芸術文化鑑賞機会を提供した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果を披露する町民音楽祭の出演団体が減少傾向となっている。生涯学習活動の活動拠点となる地域交流センターとの情報共有や事業連携により、引き続き人材確保や人材育成に目を向けていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	文化協会への加入団体数	団体	目標	10	10	10	11	11	90.9%
			実績	10	10	10	10		
	音楽協会への加入団体数	団体	目標	11	11	12	12	13	91.7%
			実績	11	11	11	11		
	花いっぱい運動コンクール参加団体・個人数	団体・人	目標	24	25	25	25	25	108.0%
			実績	25	26	26	27		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	文化展や音楽祭の運営について、運営主体の団体以外の参加を検討する等、新たな人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名		分析・検証結果		今後の方向性
	芸術文化推進事業	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用縮小

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいコンサートが出校日になり良かった。地域連携の成果も秋のまつりで披露することができる。ただ、秋の文化行事が寂しくなっていると感じる。 ・一番課題がある分野で、魅力が薄れてきている。見直しの時期に来ている。秋の文化行事にスポーツ分野も入れてみてはどうだろうか。 ・マンネリ化して、盛りあがり欠ける。役場全体で考えてみる必要があるのではないか。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	
施策	02-14	生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興	総合評価 C

1 目指す姿

住民誰もが、ライフステージを通じて、それぞれの体力や関心、適性などに応じて、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境が整い、健康および体力の保持促進、障がい者スポーツが盛んなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度以降の中学校部活動改革に向けて、地域部活動検討委員会を1回、部会（運営団体設立準備部会）を3回開催した。 ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、前日の荒天の影響で屋内での実施とし、一部競技の内容を変更して実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後、中学校部活動改革のために、地域クラブ活動の主体となる運営団体・実施主体の体制を整える必要がある。 ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、多くの参加者を得ることができるよう、開催方法や内容の検討が必要である。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	休日の地域部活動の実施	回	目標	検討する	検討する	準備する	実施する	実施する	-
			実績	検討した(3)	検討した(8)	検討した(15)	検討した(4)		
	ファミリースポーツ・レクリエーション大会参加人数	人	目標	400	400	420	440	460	79.5%
			実績	中止	400	350	350		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	今後、中学校部活動改革のために、人材確保をするとともに運営団体・実施主体の体制を整える。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	休日の地域部活動の実施	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要	A	事業拡大・費用拡大
	ファミリースポーツ・レクリエーション大会	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	C	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 10月～11月は行事が立て込む。子どもが少なくなっているし、複数の行事を集約してはどうだろうか。 ファミレクは、子ども、自治会にアンケートを取ってみてはどうだろうか。 部活動については、生徒に不公平感がないようにする。難しいだろうが、できるだけ町内で活動ができるようにする。 秋のイベントが多い。何もかも盛りあがるのは無理である。削るか、集約するかが必要。
------	----------	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価 B
施策	02-15	読書活動の推進		

1 目指す姿

図書館が、生涯学習の拠点として気軽に楽しく学ぶことができる場となるとともに、多くの本と出会う環境の中で、本を通じて住民一人ひとりが心豊かな生活を送れるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・読書は、豊かな情操を育み、人格形成をしていく上で大きな役割を担うことから、蔵書の充実を図るとともに、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館事業等により、乳幼児の時期から本に触れる環境の提供、長期休業中の子どもへの読書機会の提供に努めている。 ・図書館まつりを開催し、読書に関心を持ってもらうきっかけづくりを提供している。 ・「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、広報や図書館ホームページ(QRコードを取り入れる等)を活用した情報発信に取り組んでいる。
課題	

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	町立図書館年間貸出者数	人	目標	11,000	12,000	13,000	14,000	14,600	83.6%
			実績	11,107	13,791	13,092	11,707		
	町立図書館年間貸出冊数	冊	目標	58,000	59,000	60,000	61,000	62,400	106.1%
			実績	58,362	70,550	68,420	64,720		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	図書館蔵書充実事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は、きれいにできて使いやすい。一方で、みんなが集える場、談話室で気軽に話ができる場、喫茶(カップの自販機)等、検討できないか。 ・複合的なもの、場づくりを公共の立場で提供すると、つながり、広がりが増えてくると考える。
------	----------	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和6年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価 A
施策	02-16	社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実		

1 目指す姿

自分たちの住む地域の歴史や文化を伝えるため、文化財を身近に感じてもらうとともに、そのものの魅力を高める。あわせて、社会教育施設の機能が充実したまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和7年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・大野毛利に関する歴史講座を開催し、文化財に対する意識の向上に努めた。 ・歴史民俗資料館において、特別展「平生町郷土かるた原画展」・「写真展」を開催し、郷土の歴史を分かりやすく伝えるとともに、芸術文化に触れる機会を提供した。 ・前年度作成した「文化財マップ」を、社会教育施設来館者等に配布し、周知に努めた。 ・社会教育施設の空調や照明を整備し、利用環境の向上に努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を有する分野であることから、人材確保が必要である。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	文化財の指定数	件	目標	16	16	16	16	16	106.3%
			実績	16	17	17	17		
	歴史講座、特別展示の開催	回	目標	1	2	2	2	3	150.0%
			実績	1	0	2	3		

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	町の歴史・文化財を後世に伝承するために、町郷土史研究会と連携をする等、人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	文化財整備・活用事業	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用縮小

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展に行っても人がいない。 ・「民話と伝説」の活用。掲載された場所に案内板を設置する等、視覚的にわかる取組みができないか。 ・歴史講座は、シリーズで取り組んでみてはどうか。 ・各施設で工夫はしていると感じる。PRの仕方が大きいと思う。
------	----------	--------	--